



申
28
号

2022年度夏季手当等に関する申し入れ

PART①

2022年6月1日

第2回交渉を行う!!

5月27日の第1回交渉以降、組合員・社員から中央本部に届いた声を第2回交渉で会社にぶつけ、満額獲得を求めてきました!

本部に届いた
声の件数は

5600件以上

会社は現実と本音の声を
受け入れるべきだ!

■交渉の最後に行った組合の主な主張

- ・3.0ヶ月要求と合わせてコロナ特別手当の要求が強いことを認識して頂きたい。
- ・経済動向は、景気は持ち直しの動きがみられることや好転の動きがみられることなどを一致した。
- ・業績動向は、損失を計上しているが、社員の尽力で赤字幅を縮小して業績の回復を作り上げたことと一致した。
- ・足元は、昨年比では大きく回復している。安全・安定輸送、コロナ対策も含めた結果であると一致出来た。
- ・中長期の見通しについては、ご利用の一定の回復を見込み、黒字予想している。
- ・好循環については、労働条件の最たるものは賃金であり、モチベーション向上は重要だと一致してきた。
- ・業績を回復させ、今の会社を持続させているのは組合員・社員の日々たゆまぬ努力の結果だ。
- ・この間、財務体質を強化したことを考えれば、要求に応える力はある。
- ・手当は生活給だ。物価上昇・インフレに直面する中、組合員・社員の生活を考慮するのは会社の責務だ。
- ・短時間で5,600件の声を集約した。現実と本音に目を背けることなく、受け止め、受け入れるべき。
- ・マイナス要素に固執した賃金抑制や言葉で鼓舞するのではなく、労働条件の最たる賃金で答えるべき。それがモチベーションの維持・向上に結実する。
- ・JR 東日本グループ会社で働く組合員・社員、それを支える家族を大切に、そして魅力ある会社をつくる意味でも、満額回答を強く求める。

—満額回答を強く求める!

■会社の主な回答

- ・コロナ禍で様々な対策を講じて、安全・安定輸送を地道に進め、コストダウン、増収の努力により業績が改善している結果に感謝申し上げる。地震からの短期間の復旧も各系統のみなさんの連携の努力である。
- ・期末手当がコロナ前より大きく減少していることは事実。これによって年収ベースで影響が出ている。医療部門の皆さんは多大なる努力を行って頂いている。
- ・人材流出の言葉が議論で出てくること自体が望ましいことではない。会社を退職するのは、それぞれの事情があるが、今の会社の状況を考えた時に原因があるという指摘は謙虚に受け止める必要がある。
- ・業績が改善した部分はあるが、2年連続の赤字である。企業が存続するために利益を出すことが前提となる。2年連続の赤字ということは非常に厳しいものである。
- ・経済動向は持ち直しの動きが出て、ポストコロナへの道筋が見えつつある。そこは、見なければならぬ。
- ・貴側との議論を通じた施策のスピード感に対する認識は一致している。そこを考慮して期末手当に関して慎重に判断したい。
- ・生活実感に関する物価上昇・インフレに関しては、そういった声が強くなるということは受け止める。
- ・現状を認識して、直近の業績、議論を踏まえ、慎重にスピード感を持って回答したい。

—2年連続の赤字は非常に厳しいものである